

生活衛生センター だより



2019 (平成 31) 年 4 月 1 日 No.29

名古屋市生活衛生センター

〒464-0071

名古屋市千種区若水一丁目 2-33

電話 721-0191 FAX 721-0193

『生活衛生センターだより』はインターネットではカラーでご覧いただけます。名古屋市公式ウェブサイト <http://www.city.nagoya.jp/> から「生活衛生センター」で検索してください。

スズメバチの目覚め

春になって暖かくなると、冬の間眠っていたスズメバチが目覚めて 1 匹で巣作りを始めます。春は巣が小さく、中にいるハチも少ないので**巣を撤去するなら 4 月～6 月がチャンス!**

名古屋市でよく巣を作るのはコガタスズメバチです。コガタスズメバチの巣の特徴をチェックして早期発見を目指しましょう!

コガタスズメバチの巣の特徴



4 月～6 月の巣

トックリを逆さまにしたような独特な形で、模様は貝殻状です。巣がこの形のときはまだハチが 1 匹しかいないか、非常に数が少ない状況です。サザンカやツツジの低木、軒下などでよくみられます。

7 月以降の巣

トックリ型の首の部分が切り取られ、巣は丸くなっていきます。この時期からハチの数が急激に増加するので注意が必要です。



ハチによる刺傷被害は、剪定中によく起こります。巣に触れたり、揺らすなど巣を刺激すると、ハチは興奮して攻撃をします。巣が大きくなる前に家の周りを調べて被害の発生を防ぎましょう。

5月・6月は ゴキブリ防除運動月間

夜になるとガサガサゴソゴソ動き始める台所のおじゃま虫“ゴキブリ”

5月6月は、クロゴキブリにとってはこんな時期！

- ・ 冬を越した卵がふ化する
- ・ 冬を越した幼虫が成虫になる
- ・ 成虫になったクロゴキブリが卵を産む準備をする



クロゴキブリは卵の入ったガマ口型の卵鞘(らんしょう)を産みます。卵鞘からは20~30匹の幼虫が出てきます。ゴキブリが増え始める前のこの時期に、ゴキブリが住みにくい環境を整えましょう！



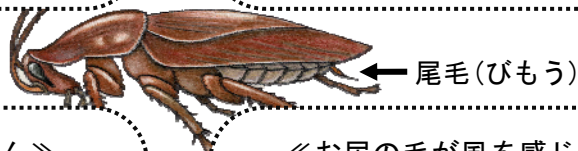
☆ゴキブリの生態と習性☆

《水が大事！》

お腹に脂肪を蓄えているので水があれば1カ月は生きられます。台所・お風呂・トイレ・排水など所かまわず歩き回るので汚いです。また、ゴキブリは古い本や腐った物などなんでも食べます。

《臭いで仲間が集まります》

フンには仲間を集める集合フェロモンが含まれています。ゴキブリが集まりフェロモンが増えると幼虫がよく育ちます。フェロモンはくさいのでゴキブリがたくさんいる所はくさい臭いがします。



《目はあまり見えません》

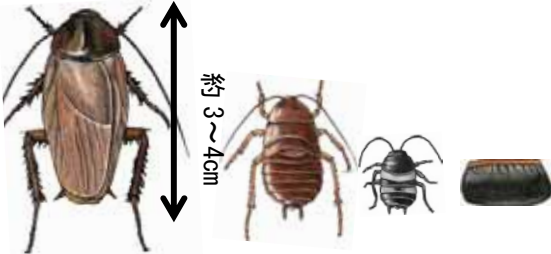

目があまり見えないので触覚や体が壁などに触れている方が安心できます。そのため壁伝いに部屋の隅の方を移動します。また、暗くて狭いすき間を好んでひそみ場所にします。

《お尻の毛が風を感じます》

お尻の毛を尾毛(びもう)と言います。叩こうとする空気の振動を敏感に感じ取り、1秒間に約50cm移動できる丈夫な脚でサッと逃げます。叩くときはゴキブリの頭側から挑んだ方が勝率が高い！？

☆ゴキブリの種類と特徴☆

屋内で見られる衛生上の害のあるゴキブリは主に次の 2 種類です。

クロゴキブリ	チャバネゴキブリ
 <p>成虫 幼虫 幼虫 卵鞘 (羽化前)(ふ化したて)</p> <ul style="list-style-type: none"> 寒さに強く、卵・幼虫で屋内外で冬を越すことができる。木造住宅でよく見られる。 成虫は 25℃で約 200 日生き、その間に 20~30 回産卵する。 卵鞘は湿度の高い場所の木材部分などに産み付けられ、メスは持ち歩かない。 羽化前の幼虫は 5~7 月に一斉に成虫になる。 	 <p>成虫 幼虫 卵鞘</p> <ul style="list-style-type: none"> 寒さに弱いため一年中冷暖房で温度がコントロールされているビル・地下街等によく見られる。 メスは 3~5 カ月の間に 5~7 回産卵する。 卵鞘はメスがふ化直前までお尻につけて持ち歩く。 卵鞘 1 つから約 40 匹の幼虫がふ化する。 クロゴキブリに比べて発育が早く、幼虫は 25℃で約 2 カ月で成虫になるため、大発生しやすい。

☆ゴキブリを減らすために☆

①ゴキブリの住みにくい環境づくり

食品やゴミはフタのできる容器に入れ保管します。
戸棚、引出し、流し台は清潔にしておきましょう。
ゴキブリのひそみ場所になりそうなすき間をなくします。
外からの侵入を防ぐために、網戸などを有効に使いましょう。

②捕獲器を使う

ゴキブリ用粘着シートなどを使って捕獲します。



③薬剤を使う

毒エサ：毒エサをゴキブリの通り道やひそみ場所のすき間に置いておき、食べさせる（ホウ酸団子）ことで殺虫効果があります。

残留噴霧：ゴキブリの通り道やひそみ場所のすき間にゴキブリ用殺虫剤を吹きかけておくと、そこを通ったゴキブリの体から殺虫剤が吸収され殺虫効果が出ます。

くん煙：ゴキブリが大発生した時などに、殺虫剤の煙で駆除します。

薬剤を使用する際には使用方法や注意事項等をよく読んで、誤って食べることの無いよう正しく使用、保管しましょう。

春から秋にかけて「マダニ」に気をつけよう！！

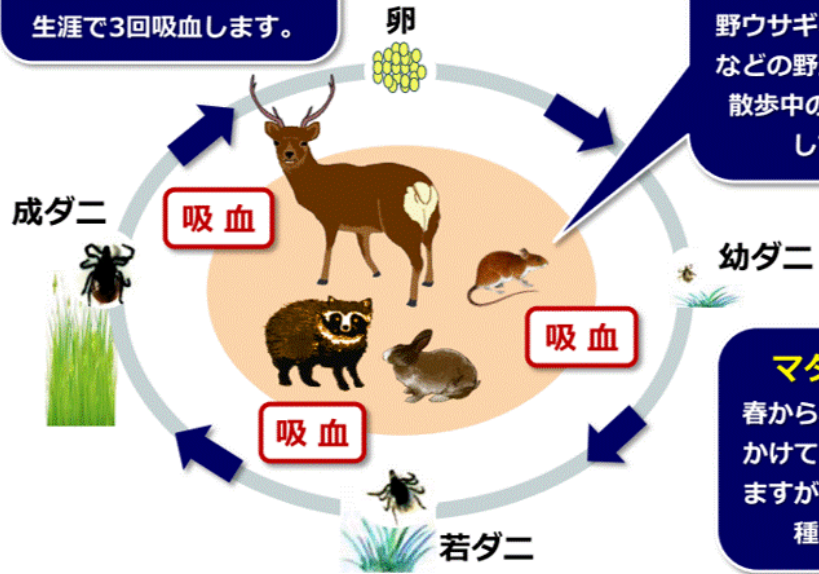
Q. マダニってなに？

A. 森林や草むらなどの屋外にいる大型のダニです。成長や産卵のために野生動物などから吸血しますが、その際に病気をうつすことがあります。春から秋にかけて、活発に活動するので注意が必要です。



マダニは、
 幼ダニ、若ダニ、成ダニ
 の各ステージで1回ずつ、
 生涯で3回吸血します。

マダニは、
 ヒト以外に、野ネズミ、
 野ウサギ、シカ、イノシシ
 などの野生動物や、ネコ、
 散歩中のイヌなども吸血
 しています。



マダニの多くは、
 春から秋 (3~11月) に
 かけて活動が活発になり
 ますが、冬季も活動する
 種類もいます。

出典：国立感染症研究所「マダニ対策、今できること」



マダニに吸血されても、気づかないことが多いといわれています。気づいたときは、無理に引っ張って取ろうとせず、皮膚科を受診してください。マダニをつかんでしまうと、マダニ内の病原体を注入してしまう恐れがあります。また、無理に引っ張ると一部が体内に残って炎症が起きる恐れもあります。

Q. マダニがうつす病気は？

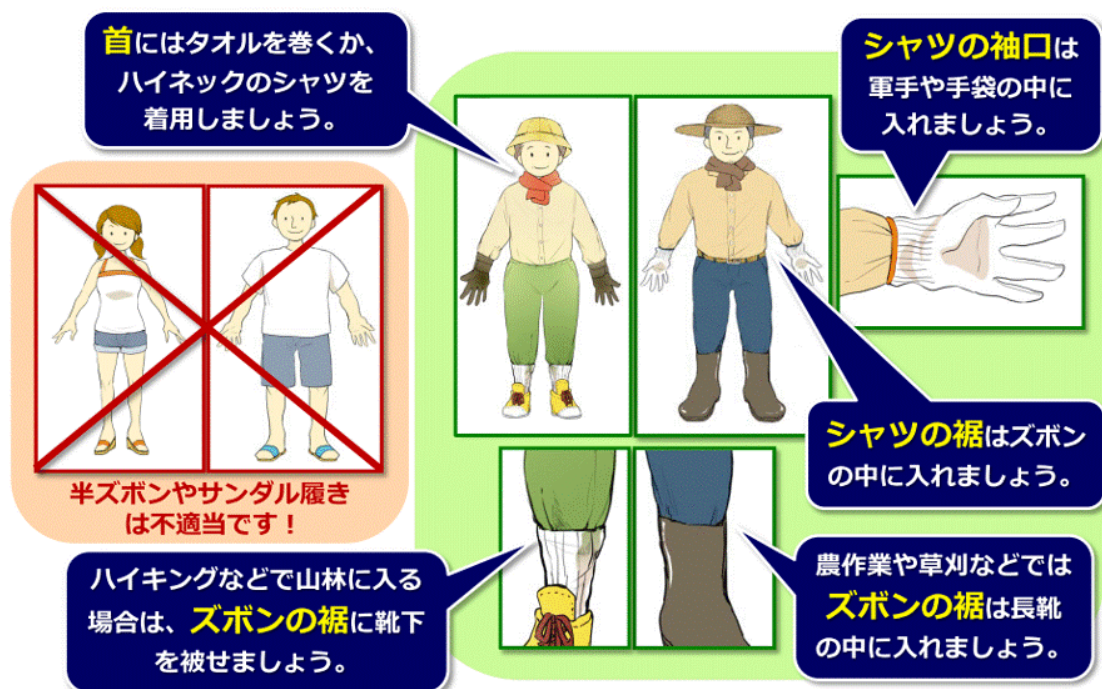
A. 日本紅斑熱や重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) などがあります。

マダニに刺された後、約 2 日～2 週間後に発疹や発熱などの症状がでます。まれに重症化すると死亡することもあるので必ず医療機関を受診してください。その際には、マダニに刺されたことを医師に伝えてください。これらの病気はマダニが活発に活動する春から秋にかけて患者が多く報告されています。

Q. マダニに刺されないためにはどうすればいいの？

A. 野外では、腕・足・首など、肌の露出を少なくしましょう。

マダニが潜みやすい、シダやササなどの下草が生い茂った細い道や、厚く積もった落葉の上などを通行する場合は特に注意しましょう。



出典：国立感染症研究所「マダニ対策、今できること」



4月から6月までに開催する行事のご案内

生活衛生セミナー

4月26日(金)

「台所にいるおじゃま虫-食品ストックにご用心-」

穀物、乾燥食品、ゴミなど台所にある食物にやってくる虫の害と防ぎ方をお話していただきます。

講師：横井 寛昭 氏 (衛生研究所主任研究員)

5月31日(金)

「セアカゴケグモってどんなクモ？」

名古屋の各区で見つかったりしている外来の毒グモについて害虫防除の専門家にお話していただきます。

講師：朝長 昌樹 氏 (防除作業監督者)

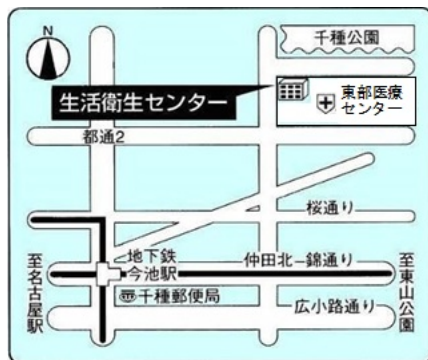
6月28日(金)

「ヒトに病気を引き起こすダニ」

マダニの他に、疥癬、ニキビダニやヒョウヒダニなど

人の健康に影響のあるダニについてお話していただきます。

講師：角坂 照貴 氏 (愛知医科大学医学部 感染・免疫学講座 研究員)



時間：午後2時～3時30分

場所：生活衛生センター

電話：052-721-0191

FAX：052-721-0193

お申し込みは電話(721-0191)またはFAX(721-0193)にてお願いします。



おじゃま虫日記

スズメバチの女王バチは暖かい春が来るまで朽ち木の中に部屋を作って越冬しています。先日ある山でスズメバチの越冬の様子を調べるため朽ち木を壊したところ、黒い大きな昆虫が出てきました(写真)。

さて、この昆虫はなんでしょう？

正解は、『オオゴキブリ』です。

黒いゴツゴツした印象から、一瞬クワガタムシ！？と思われた方もいたかもしれません。オオゴキブリは朽ち木の中で集団で生活します。2～3ページに出てくる家の中をはいまわるゴキブリとは違い、朽ち木をかじって食べているので汚くはありません。見た目も触覚が短く、体が大きくて脚が太いです。枯れて腐った木を食べ糞をして土に変える森の分解者です。

ゴキブリとシロアリは近縁なんだそうです。家で見かけるゴキブリと、住宅の木材を食べてしまうシロアリでは、”嫌な虫”ということくらいしか共通点がないように感じますが、オオゴキブリとシロアリなら、生活スタイルを見てもなるほど近い種類だなんて思えてきます。

名古屋市版レッドリストによるとオオゴキブリは『準絶滅危惧種』に指定されているとのこと。環境が変われば種の危険にさらされている貴重な生き物です。オオゴキブリが生息できる環境が名古屋市内にいつまでも残るように願うばかりです。

